

鳥取砂丘西側整備構想改訂案に対する市民政策コメントの結果について

このことについて、令和2年2月3日から令和2年2月25日まで実施したところ、3名の方から計18件のご意見・質問等をいただきました。

ご意見・質問等の内容とそれに対する本市の考え方は次のとおりです。

※公表に際しては、ご意見の一部を要約しているものがございます。ご了承ください。

番号	ページ	いただいたご意見・質問等	ご意見・質問等への本市の考え方
西側の全体整備に関すること（整備コンセプト）			
1	P6-P7	改訂案からは、砂丘西側に東側に勝るとも劣らない圧倒的な魅力として、「何ができる」「行ってみたい!」と思えるような具体的なコンテンツや導線を含む構想が見えづらいです。そうなると、「結局、東側でいい」という事になります。 砂丘西側の砂丘地内に、広大で様々な遊びができるエリアを用意するなど、「他にはない場所」と感じさせられるような、ユーザー目線での東側にはない、かつ東側と肩を並べられるくらいの思い切った魅力開発の具体策が必要だと考えます。	砂丘西側の魅力を伝える具体のコンテンツについては、本構想改訂後、本市を含む鳥取砂丘に関係の深い産官学民で構成の鳥取砂丘未来会議で協議し開発を進めることとしています。 同会議はこれまで、鳥取砂丘新発見伝事業と銘打って、冬の風物詩として定着した鳥取砂丘イリュージョンや、西の皆生、東の鳥取砂丘としての知名度獲得をめざす鳥取砂丘トライアスロン大会、砂丘地内で行われる各種アクティビティメニューの開発支援などを行ってきました。
2	P6-P7	砂丘東側は馬の背という絶対的な景観があり、かつ、お土産屋、砂の美術館、展望台、ロープウェーなどが徒歩圏内に動線として整っています。しかし、砂丘西側はそれらが整っていませんので、砂丘西側に人が「行って見よう!」といった理由づけや動線が生まれ限り、個別のホテルやキャンプ利用施設のみが人がいる状態となり、今とナンら代わり映えのない状態になると考えられます。 箱モノ整備やインフラ系整備は整ったが、肝心の人を魅了する具体コンテンツがない・・・という事にならない開発を期待します。	令和2年度からは、この新発見伝事業を「日本一のすなば」魅力〇ごと事業に改め、特に砂丘西側でのイベント開催や魅力開発を行う団体に最長3年間の支援を行うこととしています。 これらの事業を通じて、今後、砂丘西側ならではのコンテンツ開発、ソフト事業の充実が図られるものと期待しています。 これらのソフト事業と施設整備等のハード事業を併せながら、総合的に砂丘西側の整備に取り組んでいきたいと考えます。 ※P7に「魅力あるコンテンツの開発」について記述しました。

3	P9	<p>駐車場が無さ過ぎます。少なくとも整備された 300 台程度止められる駐車場は必須だと思います。</p>	<p>現時点では、ゴールデンウィーク等を除き、砂丘西側での駐車場不足は生じていません。しかし、西側整備が進めば、今後、駐車場不足も予想されますので、この構想の実施と併せて検討していきたいと考えます。</p> <p><u>※P9 に「駐車スペース」について記述しました。</u></p>
インバウンドに関すること（来訪ターゲットの設定）			
4	P8	<p>ターゲットにインバウンドを見据えているのであれば、数ある日本の観光コンテンツの中で際立つ、「砂丘ならでは」といった、世界から見た目線、人を寄せつけるインパクトはあるかといった目線で、世界の人々が「そこに行ってみたい！」と思える、他に無い圧倒的な場所となるような思い切った施策を検討すべきと考えます。</p>	<p>西側市有地の活用促進に関するプロポーザルでは、リゾートホテルの事業者から「雪が積もり、背景に海が広がる砂丘は世界中どこにもない。海外にPRできる」といった提案をいただきました。</p> <p>これまで、冬の鳥取砂丘は、春～秋に比べ来訪者も少ないことから、鳥取砂丘イリュージョンなども、12月上～下旬までの開催とするなど、冬～春にかけては、目立った集客コンテンツもありませんでした。</p> <p>今後は、ホテル事業者の提案に基づき、雪の積もる鳥取砂丘等の魅力を世界に発信する取り組みについて、ホテル事業者の意見等を伺いながら、検討していきたいと考えます。</p> <p><u>※P7 に「夕日、星空、雪景色等」について追記しました。</u></p>
5	P8	<p>外国人旅行者の増加を目指すようですが、メリットばかりでなくデメリットも想定し、対策を検討すべきと考えます。</p>	<p>外国人旅行者の増加は、地域経済の活性化の一方で、近年、オーバーツーリズムと呼ばれる観光公害も問題視されています。</p> <p>また、日韓関係の悪化や、未だ終息が見えない新型コロナウイルスなどの感染症も、観光地の経済に大きく影響することが今回明らかとなりました。</p> <p>このことから、外国人旅行者の増加については、デメリットについても、今後、検討する必要があると考えます。</p> <p><u>※P9 と P15 に「外国人旅行者」について追記しました。</u></p>

サイクリングターミナルに関すること（機能配置）			
6	P8	サイクリングターミナルを拠点というからには、サイクリングユーザー目線で魅力あるコースを打ち出していく必要があると思いますが、圧倒的の魅力あるコースが提供できる案と計画はありますか。	サイクリングターミナルのさらなる魅力アップとともに、今後、自転車道の再整備を含む検討を県市で進め、魅力あるコースづくりに努めたいと考えます。
柳茶屋キャンプ場に関すること（機能配置）			
7	P9	キャンプ場は有料化により「砂丘ならではの」を取り入れた施設のブラッシュアップが必須だと感じます。	民間活力の導入を前提に、今後、柳茶屋キャンプ場の有料化とブラッシュアップを検討したいと考えます。
8	P9	柳茶屋キャンプ場は、松の木を伐木造成し、砂地を活かした他には無いキャンプ宿泊施設として整備すべきです。 また、富裕家族層をターゲットとするグランピング場、オートキャンプ場の機能を併せ持ち、宿泊収益の拡大を図るべきです。	柳茶屋キャンプ場は、現在の植生を最大限に活かした内容で、グランピング場やオートキャンプ場といった新たな業態への転換について、今後、検討したいと考えます。
9	P9	柳茶屋キャンプ場には、「砂」をテーマとする巨大砂場パークを併設し、幼児世代が安全かつ衛生的に砂あそびができるエリアとすべきです。このエリアは、砂の美術館の入れ替え用の砂（古砂丘の砂）を活用し、通期で砂像彫刻体験を行うことができる場所とします。 これにより、多くの市民が日常的に砂にふれ、砂像文化の定着が進むものと考えます。	幼児世代が安全かつ衛生的に砂あそびができるエリアの整備については、現在の砂丘西側の利用状況からみても、今後、検討が必要と考えます。 整備場所について、柳茶屋キャンプ場のご提案をいただきましたが、現在の利用状況としては、県休憩舎付近での利用が盛んなことから、今後、環境省や鳥取県と連携し、県休憩舎付近での砂場の整備について検討を進めたいと考えます。 砂の美術館の入れ替え用の砂につきましても、併せて活用を検討したいと考えます。
サイクリングターミナルと柳茶屋キャンプ場の一体運営に関すること（機能配置）			
10	P9	サイクリングターミナルは、柳茶屋キャンプ場の一体施設とし、運営を民間に指定管理委託、または、施設全体の運営権を民間に譲渡し、鳥取市の支出圧縮を図るべきです。また、大手キャンプ予約サイトに登録し、WEB集客で経営の安定化を図るべきです。	サイクリングターミナルと柳茶屋キャンプ場の一体運営については、現在のサイクリングターミナルが担っている社会教育施設としての役割と今後のあり方の検討を要するため、各関係機関と協議を図りながら、民間活力の導入の検討を進めます。 WEB集客等についても、今後、検討してまいります。

コンテンツに関すること			
11	P9	砂丘西側でA T MやW i - f i、飲食店やカフェの計画が見えません。	W i - f i 環境については公共での整備を、A T Mや飲食店、カフェの整備については、民間事業者の参入を促し、今後、砂丘西側での整備を進めたいと考えます。 ※P9に「W i - f i 環境の整備」について記述しました。
12	P10-P11	セグウェイは面白い取り組みだと思いました。今後、大きな人が入れるようなアリジゴクなどを作ると面白いと思います。	砂丘アクティビティの充実に努めるとともに、新たなコンテンツの開発を、今後、検討したいと考えます。
13	P10-P11	温泉は大きな滞在理由と考えますが、足湯、混浴砂露天風呂などはどうでしょうか。	温泉施設の整備については、リゾートホテルの事業者で検討が進められていますので、ご意見を事業者にお伝えし、今後、充実に図りたいと考えます。
14	P12	タイのトゥクトゥクなど、乗るだけでも希少でいいのではないかと考えます。	この構想の検討段階では、海外の観光地の事例として、タイのトゥクトゥクなどを活用した二次交通の検討も行いました。今後も、砂丘東西を結ぶ交通手段として、引き続き検討していきたいと考えます。 ※P12に「タイのトゥクトゥク」について記述しました。
国・県等との調整に関すること			
15		草原化という問題もあるなか、砂防林（松）が多すぎると思います。砂丘の価値を高めるには、もっと砂丘地を拡大させ、外から見たインパクト、訪れたときの来訪者の視界の驚き（非現実性を味わえる要素）を向上させるべきだと思います。	砂丘西側の砂の移動促進と景観回復のため、本市は過去 1972 年と 1982 年の 2 度にわたって砂防林の伐採を行ってきました。また、草原化防止のための除草については、多くのボランティアの協力を得ながら、継続して行っている状況です。砂防林のさらなる伐採については、観光面の価値は高まったとしても、砂丘の貴重な景観や動植物等の生態に影響し、砂丘の学術的な価値を下げることになりかねませんので、慎重に行う必要があります。ご意見につきましては、鳥取砂丘未来会議に報告させていただきます。

16		案内看板の多言語化を行われるようですが、数年前に県が方針を定めたと思いますので、県と整合を図りながら整理を進めるべきです。	案内看板の多言語化等にあたっては、県と協議しながら事業を進めていきます。 <u>P9に「多言語案内看板」について記述しました。</u>
17		こどもの国は、もっと遊びや遊具などを刷新していくべきと考えます。	ご意見を所管の鳥取県へ伝えるとともに、県市で連携した事業についても、今後、検討してまいります。
その他			
18		ハード面だけでなく、来訪者のマナー向上といったソフト面での啓発活動などの強化にも取り組んでほしいです。	施設整備のみが先行することのないように、引き続き、来訪者のマナー向上についても啓発の強化に取り組んでまいります。 <u>P9に「来訪者のマナー向上」について記述しました。</u>